



▲環境問題を絵で説明する廣瀬さん(左)と金ヶ江さん(右)

環境フォーラムinふくつ

未来につなぐ ふくつの自然環境

さまざまな環境問題への理解を深め、福津市の 自然環境を未来につなごうと、12月18日、イオン モール福津で環境フォーラムinふくつを開催しま した。体験・展示コーナーはもちろん、クイズラ リーにもさまざまな年代のかたが参加。家庭から 出る生ごみを段ボール箱に入れ、その中で減量・ 堆肥化を行うダンボールコンポストの講習会には 29人が参加し、NPO法人循環生活研究所の廣瀬 昭子さんと金ヶ江ヤエ子さんの声に耳を傾けてい ました。参加者の皆さんは環境問題への意識がと ても高く、次から次に質問が飛び交っていました。























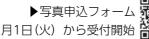


発行月に1歳の誕生日を迎える赤ちゃ んの写真を募集しています。掲載を希 望する人はプリントした写真を子育て 支援センターなかよしに持参するか、 市公式ホームページでも受け付けてい ます。持参の場合、写真はプリントし たものに限ります。データの持ち込み は受け付けられません。毎号先着24人 で、4月生まれの赤ちゃんは2月17日 (木)が受付期限です。

受付、問い合わせ

市子育て支援センターなかよし(ふくと ぴあ)☎35・8382

休館日 月曜日、第2土曜日とそれに続 く日曜日、祝日





令和3年度 福津市人権講演会

人権週間に先立ち、12月4日、市中央公民館で 人権講演会を開催しました。講師に、日本で初めて 同性パートナーシップ証明書を取得した、元タカラ ジェンヌで公認心理師、LGBTアクティビストの 東小雪さんを招き、東さんのこれまでの経験や活動 を踏まえながら、LGBTの考え方についてご講演 いただきました。性的マイノリティ(少数者)だけで なく、女性や子どもなど幅広く支援を行っている東 さんは「社会で生き難さを感じている人は身近にた くさんいる。その生き難さを多様性として認め、一 人一人を大切に思ってほしい」と語っていました。

いろいろな人がいて当たり前



▲終始笑顔で講演する東さん

TSUYAZAKI BASE CAMPがSDG s 宣言第1号 プラスチックのリサイクルを推進

持参したプラスチックごみからリサイクル品を 自分の手でつくることができる「廃プラリサイク ル体験」や環境教育などを通じて環境保全、啓発に 取り組む TSUYAZAKI BASE CAMPが、12月6 日、市で最初の SDG s 宣言を行いました。

工場長の古川隆邦さんは「体験を通じて、子ども たちにリサイクルやモノづくりの楽しさを感じて もらいたい。また、公園の柵に廃プラスチックの角 材を使用するなど、さまざまな取り組みを通じて プラスチックのリサイクルを進めていけたら」と 今後の展望を語っていました。



▲SDGs宣言を行った古川さん(中央)と吉原真琴さん(左)

畦町の八幡宮境内でソバの脱穀と唐箕掛け

まちおこしから始まった地域活動

唐津街道畦町宿保存会がまちおこしを目的とし て始めたこの活動は今年で8年目となり、当日の 12月5日はソバボランティアや地域のかた32人が 活動に参加しました。参加者は新そばをみんなで 食べる日を心待ちにしながら、真剣に作業に取り

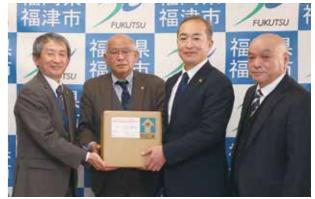


▲風力を利用して実だけを選別する唐箕掛け

高純度次亜塩素酸水の寄贈を受けました

命と安全を守るために

福岡県工業技術センターと共同で高純度の次亜 塩素酸水を開発した、古賀市の株式会社凛テックス から200ℓの次亜塩素酸水「スーパー凛水」の寄贈 を受けました。吉永克美代表取締役は「凛テックス は命と安全を守ることをコンセプトにしている。学 校や市役所で使ってほしい」と語っていました。



▲次亜塩素酸水を寄贈する吉永代表取締役(中央左)と吉永泰像顧問(右)